

人知る人もない異郷で、こんなに親しまれ又泣いて別れをおしんで呉れるのに對し、本當に嬉しくて、長年の友情を感謝の辭を述べてゐる裡に眼頭が熱くなり涙を禁じ得なかつたのでした。その時の記念に贈られた忘れな草のブローチは、今なほ數々の思出の中に彼のアメリカの母親達の顔々をうかび上らせませす。丁度今年六歳になる長女が女高師附屬の幼稚園にこの春からお願ひして、毎日の送り迎へに追はれながら、今度は日本の幼稚園で氣兼ねしに、いはゞ内輪同志の中でのび／＼と保育していただける反面、敗戦後混沌たる世相を眺めつゝ、どんな風に子供を育て、行かねばならぬか、只今の母親私共に課せられた重大使命を痛感致します。學校と家庭、先生方と母親達としつかり結び付いて、今育ちつゝある兒童の教育に力を合せて、新しい而して立派な日本人を造り上げるといふ事を心から願つて居ります。

## アメリカの幼稚園の古い思ひ出

倉 橋 生

遠藤夫人にお願ひした此の興味深い原稿を讀みながら、アメリカの幼稚園の見學の思ひ出が、あり／＼と目の前によみがへつて來た。それは古いことだし、遠藤夫人のやうに、一つの幼稚園に親としてしつくりと結びついたのでもなし、こないき／＼したお話にはならないが、わたしの研究にとつて有益だつたことは、致知れな

い。大學をシカゴとロンビヤに選んだ關係で、それらの大學にある幼稚園は勿論長くはしく見學させて貰つたし、此の二つはアメリカの保育界を代表するものといつてよからうが、その他、旅行する度に、その土地々々の幼稚園とナーセリー・スクールと託兒所とは、必ず訪ねた。その中でも、特に感心したドーナグロップの幼稚園のことは、嘗て本誌上にも書き、舊著「幼稚園雜草」の中にも再録して置いた。ヨーロッパの方でも、ロンドンのマクミラン女史のナーセリー・スクール、ベルリンのベスタロッツテ・フレイベル・ハウス、ゼネバのクラブレド教授の關係してゐる幼稚園など、それ／＼多くの學ぶところがあつたが、印象的に忘れられないのは、ドーナグロップの幼稚園だ。印象的に忘れられないといへば、ロンビヤ大學の幼稚園で、アメリカの幼児達の中で仲よく遊んでゐた、たつた一人の日本の女の子だ。わたしは、遠藤夫人の坊ちゃんのことを原稿で讀みながら、あの嬢ちゃんのことを思ひ出した。わたしが英語で話かけたら、あざやかな英語でお返事をして呉れたことなども。今は立派な奥さんになられ、きつといふお母さまになつてゐられるだらうが、若し、「アメリカの幼稚園で保育を受けた話」でもいふものを書いて下さいと願つたら、どんな思ひ出をもつてゐられるものだらうかと、自分ひとりではゝえましく思つてみたりした。それはとにかく、遠藤夫人のこのお話からは、深山のことを學びたい。殊に親と先生の會のことなど、わたしも羨ましいと思つた。その後も、書物や報告では研究してゐるが、その實際の一員としてのお話を讀んで、新たに興味深い。東京女高師の幼稚園でも、「親と先生の會」をつくつてゐるが、この問題はいづれくはしく書きたいと思つてゐる。